

奥日光 夢の湖スノーシュー散歩と戦場ヶ原

2025年3月12日(水)~13日(木)

「故郷は大雪」の便りを聞くまでもなく、冬になると一度は雪を踏んで歩きたくなります。2024 忘年山行では赤城山を歩いて雪を踏みましたが、もう一度、スノーシューで歩くほどの雪の上を歩きたいと思いました。

初めての場所では不安。何度か歩いたことのある奥日光に決めて計画し、5名の賛同を得て6名で行ってきました。

右の写真は、三本松付近を走るバスの車窓から見た戦場ヶ原です。雪上歩きの期待が膨らみます。



湯元温泉バス停の目の前というか後ろというか、すぐ近くの「奥日光パークロッジ 深山」さんが、今夜の宿。

宿に寄ってスノーシューを借り、スパッツを付け、靴紐を締め直して出かける。湯の平湿原(橋の右手)を通して夢の湖・切込湖・刈込湖への登山口がある湯元源泉地へ向かう。

湯の平湿原(手前)と湯元温泉の源泉地。中央左の白丸のあたりから、スノーシューを履いて登り始めたが、斜面が急で歩きづらかった。



斜面を登り切ると、平地に出た。この雪の下は国道 120 号線。金精トンネルを抜けて群馬県片品村・沼田市へ続く。後ろに湯の湖が見えている。

上り下りを2~3度繰り返して、夢の湖に着いた。早速昼食に取り掛かる。右端にワインのボトルが見えている。

LMCの旗を取り出して記念写真を撮る。右手後ろが、夢の湖。氷と雪に覆われていた。



行きの写真では道路は雪に覆われていたが、戻ってきたときには、車1台が通れるだけ開かれていた。2時間ちょっとの間の作業。機械の力は凄いものだ。

遠回りになるが、開かれたばかりの道を通して帰ることにした。スノーシューは不要になったので外したが、道路上の雪の深さ 60~70センチメートルくらいか。右下隅にアスファルト舗装が見えている。

バスでここを通過したとき、通行止めの柵の手前で左折したのだが、その時、柵の向こう側は雪に覆われていたのだ。また言うが、機械の力は凄い。



風呂を済ませて部屋に戻りゆったりしているところに、所用で遅れた星さんが到着した。全員が風呂から出てくるのを待って、夕食前に1回目の乾杯をした。ビールは宿で買入れたが、ウイスキーや酒、焼酎はそれぞれが持ち寄ったもの。

夕食の18時まではまだ時間がある。が、あまりたくさん飲んで、夕食に差し支える。ほどほどにしておかなければならぬ。



夕食の席に付いて。レストランのマスターにシャッターを押してもらった。料理はもう2皿、3皿あったように思う。

夕食後も、また乾杯。雑談が続いたが、明日のために22時でお開きにし、2部屋に分かれて就寝した。

(つづく) 作成；勝沼

奥日光 夢の湖スノーシュー散歩と戦場ヶ原



「奥日光パークロッジ深山」玄関前の駐車場で。宿の支配人が送りに出てきて写してくれた。雪壁の向こうが、「湯元温泉」バスターミナル。

人物左から、阪西さん、星さん、川村さん、山川さん、勝沼、成田さんの皆さん。下の絵は、箸袋をコピーしたもの。山の名前がこれで知れる。



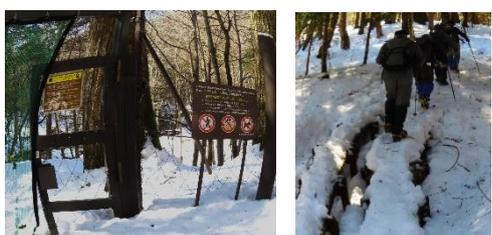
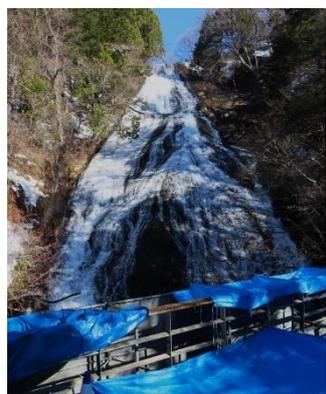
2階の部屋から見えた風景。手前が宿の駐車場、その奥がバスターミナルの広場と待合室。バスが1台、停まっている。



朝食の膳。プラスご飯と味噌汁。これを完食するから山から帰ると、体重が増えている。



宿の玄関をバックにもう1枚。その後、バスに乗り「湯滝入口」で下車。車道を歩いて湯滝を目指す。



湯滝に着いた。滝見台は冬囲いのまま。湯川の右岸を下る道は封鎖中。左岸に行くには鹿除けの網を潜って進む。雪は、林の中だけれども木道を隠して、深い。



小滝に着いた。湯川に架かる橋を渡って少し進むと、踏み跡もはっきりせず、アイゼンを付けた脚は膝まで埋まって歩きづらい。予定通り歩くのは難しいと思い、引き返すことにした。



「湯滝入口」まで戻ってバスに乗り、「赤沼」で下車。バス停前の休憩所で、身支度を整え直して戦場ヶ原の中へ。



宴の跡はきれいにしておきましょう。そうして、足取りも軽く「赤沼」バス停へ。

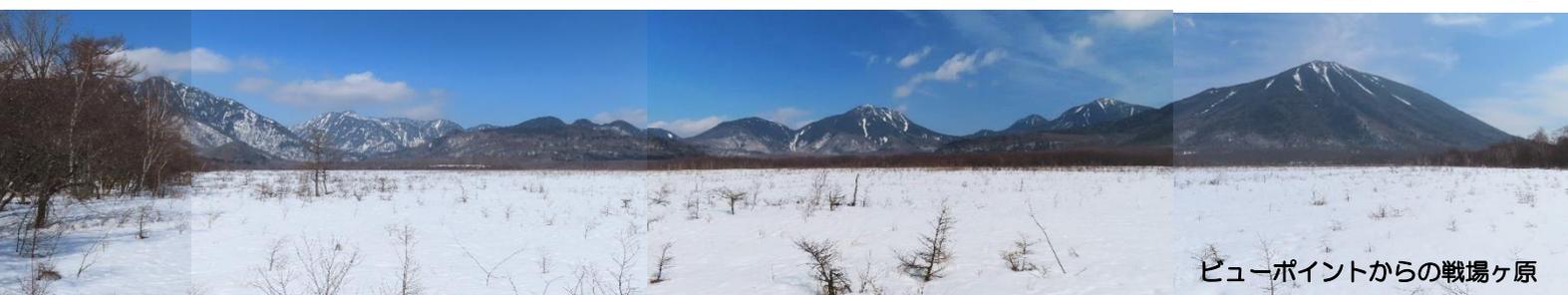
最初の展望台に立つ5名。この報告を作りながら思った。LMCの旗を出して写しておけばよかったと。

というわけで、右写真は休憩の時に飲食物を並べたテーブルの上にカメラを設置して撮影。見上げる角度で、不満だが。



予想以上に雪が深く、コースの変更はありましたが、愉快的な旅になりました。「中禅寺温泉」バス停近くの食堂で昼食。打上の乾杯をして帰ってきました。

(おわり) 作成：勝沼



ビューポイントからの戦場ヶ原